

# 今年度も、おおがくの後期選抜講評が、読売新聞に掲載されました。

## 平成29年3月9日 読売新聞 朝刊

平成29年度 宮城県公立高等学校

# 後期選抜講評

仙台おおば学舎 講師陣による 後期選抜講評

- 【国語文責】 鈴木愛由夢
- 【数学文責】 池田慎太郎
- 【英語文責】 豊巻奈緒子
- 【社会文責】 吉田宙史
- 【理科文責】 池田慎太郎

## 出題方針と講評

県教育委員会に各教科の出題方針を聞き、学習塾「仙台おおば学舎」の講師陣に問題を講評してもらった。

### 国語

【出題方針】第1問は老舗和菓子店を舞台に、登場人物の様子や心情などを豊かに読み取り、適切に表現する力をみよとした。第2問は書き手のものの見方や考え方を的確に捉える力、第3問は古人のものの見方や考え方を捉える力を問うた。第4問は基礎的な漢字の読み書きなどの力を見よとした。第5問は、読書に関する標語を選び、その理由を記すことで課題から豊かに発想する力を測った。

### 構成・難易度例年並み

大問5問の構成は変わらず、難易度も例年並みで、解きやすいものだった。

第1問の文学的文章は、老舗和菓子店の娘の主人公が、やっと完成した和菓子の名前に祖父が込めた思いを理解していく様子を描いた作品。当初の印象と、家族の話を通じてからの印象との違いを正確に把握できるかがポイントだった。

第2問の説明的文章は、世の中で起る自然現象に関して、科学ドキュメンタリー映画の果たす役割を述べた内容。具体例が多く示されており、筆者の意見、事実説明としっかり区別し、解答に必要な内容を探し出すことが重要だ。

第3問の古文は「徒然草」が題材。単語の意味が掲載され読みやすかった。第4問の漢字は基礎的だった。第5問の作文は、昨年度同様、テーマを選択させ、解答させるものだった。普段から作文練習を行っている受験生には容易だった。

(鈴木愛由夢講師)

### 数学

【出題方針】第1問では数と式についての基礎的な知識と計算力などを問うた。第2問では、反比例の変換を考察する力や2次方程式を立てて処理する力などをみよとした。第3問では、関数的な見方や考え方を基に論理的に考察し適切に処理する力を測った。第4問では、円や円周角に関する基礎的な知識や、三平方の定理、相似な三角形の性質に関する知識などを組み合わせた、論理的に問題を解決する力をみた。

### 全体的にレベル上昇

全体的にレベルが上がった。応用問題の難易度も非常に高く、例年に比べ苦戦する生徒が多かったと思う。

第1問は基本的な問題。後半からは例年と比べ難易度が上がった。第2問も難易度が上昇。確率の問題で点数を落とす不安はあるが、丁寧に問題を解き進めれば正答を導けた。

第3問の関数は例年通り難易度の低い問題から始まるが、最終問題で難易度が急上昇する。正答への式や解法、ひらめき以上に「問題文の理解」が最も重要だった。何が問われているのかを把握していれば、適当な時間・水量を等式に当てはめることができたろう。

第4問は例年通り図形が出題され、最終問題が非常に難易度が高かった。どれだけ生徒が、問題文にある図形を定め、円をイメージすることができたか。大小二つの円内にそれぞれ作ることができるとの三角形が力ギとなった。

(池田慎太郎講師)

### 社会

【出題方針】地理・歴史・公民の3分野の知識や理解などをみた。第1問は生活と環境の関わりについて、第2問では近世までの歴史の大きな流れに関する知識や理解などを問うた。第3問は基本的人権などについて、第4問では東京、大阪、京都の1都2府を題材に、資料を基に考察し適切に表現する力をみた。第5問は第1次世界大戦から現代までの歴史の流れを、資料と歴史的事象を関連付けて考察する力を問うた。

### 基礎力あれば高得点

全体的に難易度が低く、解きやすい問題が多かった。問われる知識も、定期試験で出題されるようなレベルであり、基礎力さえあれば高得点も可能なものだった。いかに失点しないかが力ギだった。

第1問の地理は、気候の特徴や気温図を問うもので、いずれも平易。

第2問は縄文時代から江戸時代までの「人々の信仰や文化」についての問題。基本的な知識を持ち、活用できる受験生には易しく感じられたと思われる。

第3問の公民は「人権と民主主義」について問われたが、知識を深く掘り下げるような問題は、いわゆる地理・歴史・公民の3分野融合問題。与えられた数値を使って計算したり、推察したりして、解答を導きだしていくものだ。資料の読解問題に対する経験値が試される問題だったと思われる。

(吉田宙史講師)

### 英語

【出題方針】第1問は絵を見ながら短い会話を聞き内容を理解する力を問うた。第2問は基本的な文法・語法に関する知識や理解、語彙力をみた。第3問ではある程度の長さの英文を的確に読み取る力や要旨を正確につかむ力を測った。第4問は、弁当という言葉が外国でも使われるといった会話を素材に、大切な所を的確に捉え全体内容を読み取る力について、第5問は自分の考えを英語で表現する力をみよとした。

### 時間配分調整が重要

全体的に出題形式に大きな変化はなかった。長文に時間をかけた受験生が多かったと予想するが、他の設問で時間配分が調整できたかどうか重要だった。

第1問は例年通りリスニングが実施され、会話力・コミュニケーション能力がみられた。第2問では空欄補充問題で熟語・単語の知識、さらに、今年度は文法力も問われ、やや難化した。

第3問では伊能忠敬の日本地図製作に関する物語を題材に語形変化、並び替え問題、正誤問題が出題された。問題の解答となる部分は難しくなかったが、小さな重要文法が本文中に散りばめられており、速読に苦戦したと推測する。

第4問の対話は比較的読みやすく、流れがつかみやすかった。第5問では、資料の読解力と英作文能力が同時に試された。自由記述に近い形だったので、多くの時間を割くほどの難しさはなかった。

(豊巻奈緒子講師)

### 理科

【出題方針】第1問では身近な自然や実験でみられる事象、現象への関心などをみた。第2問では葉の観察、実験を通して光合成について思考・表現する力を問うた。第3問では、惑星に関する知識や天頂付近の星と北の空の星座の動きについて思考・判断する力を測った。第4問では、単体と化学反応式に関する知識・理解する力をみよとした。第5問は電流計の読み取りや抵抗値を求める力を試した。

### 難易度易しくなった

昨年と比べて、難易度は易しくなった。計算問題ではいかに過去問にふれ、演習したかで差が出た。

第1問は化学・生物・地学・物理の4分野から出題された小問集合問題。物理の難易度は昨年と同様、高かったが、他の3分野は易しかった。第2問の生物は植物と人体の分野から出題。記述の問題では光合成のしくみや、肝臓のしくみを問うたものだった。普段から記述の練習をしていた生徒は難なく答えられたと思われる。

第3問は天体で惑星の数や星の動きなどの理解や知識をみた。第4問は金属の質量の問題。調節ねじや原子についての基礎問題や銅の質量を求める計算では差が出たと思われる。

第5問は電流。昨年度も出題された定番の問題だが、公式がしっかり頭に入っていれば解けた問題だと思う。グラフの作図も難しくはなかった。

(池田慎太郎講師)

平成29年度 宮城県公立高等学校

# 前期選抜講評

仙台おおば学舎 講師陣による 前期選抜講評

## 今年度も、おおがくの 前期選抜講評が、 読売新聞に掲載されました。

平成29年2月2日 読売新聞 朝刊

### 出題方針と講評

県教育委員会と各教科の出題方針を聞き、学習塾「仙台おおば学舎」の講師陣に問題を講評してもらった。

#### ■ 国 語

事項の知識・理解を基に内容を把握する力などをみ

た。

【出題方針】第1問では登場人物の様子や心情などを豊かに読み取り、適切に表現する力をみた。第2問では書き手のものの見方や考え方を的確に捉えて、適切に表現する力を測った。

第3問では詩歌を鑑賞して、発言内容を捉え、適切に表現する力をみようとした。第4問では、基礎的な漢字を読み書きする力や、楷書と行書の特徴、敬語の知識・理解などを問うた。

第5問は、古典の基礎的な

ほぼ例年並み難易度

第1問のみ若干の難化が見られたが、他は例年並みの難易度だった。

第1問の文学的文章は、人物の心情を象徴する言動の意味を記述で説明する問題が、受験生によっては難しく思ったと思われる。

第2問は手書きと機械による印字の違いをテーマにした説明的文章だった。手書きと印字の特徴を正確に

読み取ることで解答を導くことができた。

第3問は「詩と短歌」についての出題。詩は前期選抜で初出題とみられるが、話し合いの場面などが示され、解答しやすかった。

第4問は「漢字や文法関連の知識を問うたもので、主語の変化による能動から受動への述語の書き換え問題は新しい傾向だった。

第5問の「漢文」は、前期選抜の大問で取り上げられたのは初めてとみられる。返り点や抜き出し問題などの基本的なものが多く、「能」の言葉の意味を知っているかがポイントだった。

(鈴木愛由夢講師)

#### ■ 数 学

【出題方針】第1問では数と式について基礎的な知

識と計算力などをみようとした。第2問では、起こり得る場合を順序よく整理し考察する力を測った。第3問では、牧場で車のタンクに牛乳を入れてからの時間と工場のタンクに運び入れた牛乳の量との関係を題材に、二つの数量の関係を式やグラフに表現する力などを問うた。第4問では、二等辺三角形の性質と三平方の定理を活用して線分の長さを求める力などをみようとした。

第2問は、確率、文章題、図形と、例年に比べかなりの難易度低下を感じた。基本に沿って、落ち着いて解

第3問も例年通り関数で、生活の一部を題材とした問題は今年も健在。内容を理解し、関数の基礎となる「式を求めること」が出来れば、あとは分数計算をミスなく進められるかだけだった。

第4問の図形問題は、小問3、4が若干難易度が増し、差がつくポイントとなった。多数の重なる図形の中から、問題を解くのに必要となる相似な図形や合同な図形を見つけ出し、その性質を活用して導くことが

今度も例年通り全4題で、しっかりと基礎知識を身に付けてきた生徒に解きやすい問題構成だった。

第1問は、計算など基本問題が中心。非常に難易度が低く、中学校3年間の基礎学力を問う内容だった。

### 【国語文責】

鈴木愛由夢

### 【数学文責】

池田慎太郎

### 【英語文責】

豊巻奈緒子

出来たかどうかガキと違った。

(池田慎太郎講師)

#### ■ 英 語

【出題方針】第1問では

絵を見て短い会話の内容を理解する力などをみようとした。第2問は、短い会話を通じて、基本的な文法や語法に関する知識・理解などをみた。第3問では比較的長い英文から大切な部分を的確に捉え、全体の内容を読み取る力を測った。第4問では会話文から話の展開を理解する力などをみようとした。第5問は基本的な英文を構成したり、自分の考えなどを簡単にまとめるための適切な英語で表現したりする力をみた。

第4問の長文では、会話の展開を理解する読解力に加え、代名詞が示す語句の内容を把握する力をみようとした。3年で習得した新しい知識をきちんと身に付けていた生徒は、漏れなく点数を獲得しただろう。

第5問は適語補充形式の条件英作文と、晴れた日に何をしたいかに答える自由英作文が出題され、ともに昨年に比べ容易だった。

基本的な英語力試す 時間配分も難しくなく、

公立高入試問題と正解 別刷り特集面に掲載

(豊巻奈緒子講師)